平成26年5月1日発行（毎月1日発行）第45巻第5号通巻524号 ISSN 0387-1452

aff あふ

May 2014
5

agriculture + forestry + fisheries

特集1 あふちゃんといっしょに学ぼう!

新しい農業・農村政策

特集2 味わい ふれあい 出会い旅
第1回／東京都江東区「深川めし」

農林水産省

aff あふ 5 May 2014

平成26年5月1日発行（毎月1日発行）
第45巻第5号通巻524号

発行人／農林水産省 http://www.maff.go.jp/
〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1
TEL.03-3502-8111（代表） FAX.03-3502-8766

印刷／凸版印刷株式会社 Printed in Japan
製本／東京美術紙工協業組合

健康な木が、おいしい紙をつくるんです。苗りかけてくる木に、時には栄養を与えて、元気な実っぽがついた若々しい幹でいられるよう、毎日手助けをしています。バランスの良い幹はしさって言うのかな、福島桃のうま味を、ぜひ味わってみて。

福島県福島市 菱沼農園
菱沼 健一

震災後、「マリン・エコラベル認証」を取得しました。生き物も大事な資源だから、保護しながら 新鮮なサンマを届けたい。安心して食べていただくためには、生産者が果たすべきことをできるところからやっていこう、そう強く感じた一歩です。

岩手県大船渡市 扇田水産
扇田 智

脂肪を落として福島県の復興に取り組むために、衛生的でおいしい牛乳をめざしています。昨年度は福島県畜産共進会のコンクールで県内乳質No.1を達成。さらに、社会人向け 脂質教育にも取り組んでいます。生産振興の回復をめざして、負けねぇぞ。

福島県福島市
ミネロファーム

土は根わずに、コヨウレンというヤシの実の皮や繊維を使って甘くてクセのないおいしいトマトをつくっています。後遺も高度な技術で行い、さらなる安全を追求。リコピンやミネラルが通常の倍ぐらいありますから、健康にも美容にもいいですよ。

福島県いわき市 とまとランドいわき
元木 寛

気仙岩茶豆は、奇跡の茶豆です。莢まで全て食べてしまったはずなのに、ある豆莢さんにたった一袋だけこの豆が残っていたのです。あの時の命の粒が、今年も被災の地と幸りの気仙沼茶豆になりました。うまいビールに合う！

宮城県気仙沼市 階上生産組合
佐藤 美千夫

岩泉の短角牛はね、おいしいが、季節の草や木の実、ときには ミネラルたっぷりのとも食べて過ごすから、自然な赤身 のおいしい肉になるのだと思います。広い牧場と森の中で、のびのび育った牛たちは 幸せになると 金色に輝いて 見えます。

岩手県岩泉町 岩泉短角牛生産者
佐藤 純

広田育は 潮の流れが速いから 肉厚で歯ごたえのあるワカメができるんだなあ。震災後は、陸上から収穫まで 協業の 畑でやるようになって 若い者同士 のつながりが増して、さすがに 驚きましたよ。ワカメもさすがなら育て方がが大事さ。

岩手県陸前高田市 広田湾漁協
畠山 英美

八幡平の西根ほうれん草は、有機肥料で育てるからえぐみがなく、その上 糖度がぐーんと増してかみより甘くなります。えぐみが少ないから、おひたしはもちろん、ポタージュスープや、菓の部分は 真空パックにしてもおいしいですよ。

岩手県八幡平市 JA新いわて
工藤 勝弘

ありがとうのしるしは、おいしさです。

みなさんの応援に感謝して、今年もおいしいものをお届けします。

とにかく 生産を続けよう。その一途な思いで、クーラーと 断熱材で部屋を冷やし、水を使って夏も日本酒造り に取り組みました。文字てくだるった多くの皆様のおかげで、柔らかく、すっきりした味わいにいっそうの磨きがかかりました。

宮城県気仙沼市 男山本店
菅原 昭彦

キジとの交雑と言われるウチの黒鶏の卵は、コクがあって甘いですよ。「直売所あります」の看板も設置し、口コミで、少しずつお客さまが増えています。焼き鳥から 卵たっぷりのバームクーヘンまで、鶏と卵にできるおいしいことを始めます。

福島県中通り 水野谷農園
水野谷 薫・知子

江刺りんごは、実がまるると当る昔上で 完熟させてから 収穫します。だから色づきがよく 糖度が高い。豊かな香りとコクが味わえます。ポリフェノールもたっぷりきまれているから、健康にも美容にもよし。江刺の 恵みをぜひ食べてみて！

岩手県奥州市 JA江刺
菊池 敏洋

ウチのさぇうりだけじゃなくてね、困っている農家さんの野菜をセットにして、ネット販売したり、新鮮なものを届けるために できること をやっています。お客さまに、食べて 収穫してねって アピールするような 強い気持ちでね。

福島県二本松市 二本松農園
斉藤 登

三陸のホタテは、貝柱が 厚くて 味が濃いんだ。震災以降は、全国のみなさんから 支援 いただいて、水揚げ量も だいぶ 増えてきたよ。暮も少しずつ 復興していますね。船よりいい 所で 養殖しているから、そのぶん 貝の 成長がよくて、うまいんだ。

宮城県女川町 女川漁協
大江 清明

お客さまに とっていい 豚肉 って何でしょう。それは 食べておいしい 風味豊か でやわらかい肉、が私たちの 答えです。そのために、全頭、食べて 検査 します。おいしさは 食べないとわかりませんこれが伊達の 純粋志豚のこだわりです。

宮城県登米市 伊達農産
伊藤 秀雄

自然木に 胞子して栽培する 原木しいたけは、しいたけ本来の 風味が 強く、肉厚でプリプリ です。震災以降は、この 原木を 他県から仕入れて 栽培、首都圏で 積極的に 対面販売をしています。秋から冬にかけて 旬の 美味を 味わってください。

福島県矢祭町 でんぱた
鈴木 正美

抜群の甘味と香り、輝く色つやと 歩。ミナキイチゴ は、山元町が 震災を乗り越えて 大きく 開くための 希望の 粒です。最先端施設園芸と 熟練の職人による 丁寧な 手作業で、みなさんの 膜がはるところ、世界一 おいしい イチゴ をめざしています。

宮城県山元町 GRA
岩佐 大輝

私たちのつくる 緑茶代 のアスパラは、寒暖差 の大きい 気候を 生かした 甘みが 強い アスパラです。このアスパラは おもに、東京や 横浜 のおせき合いのある 自治会の 皆さん に 出荷しています。めざしているのは、生産者と 消費者の 顔が 見える 信頼の 農業です。

福島県福島市 結乃村農業団

「環境保全米ひとめぼれ」を 知っていますか。化学肥料も 農薬も 慣行の 半分以下でつくる 環境にやさしい お米。その上、甘くてふっくらモチモチ。おいしいことは 大事だけど、未来の 地球のために、環境に こだわることも 大切です よ。

宮城県登米市 JAみやぎ登米
鈴木 幸一郎

食べて応援しよう!

もっと詳しく知りたい時は、
「食べて応援しよう！」ポータルサイトへ。
詳しくは http://syokuryo.jp/tabete_ouen/

東北各地のおいしいものと、頑張っている生産者や企業の皆さんを紹介する「東日本おいしさあふれ中」、「フェア、イベント情報」「農産物等の安全性を確保する取組」など、食に関するさまざまな情報をご覧いただけます。

「フード・アクション・ニッポン」とは？
「フード・アクション・ニッポン」とは、日本の食を全国的に盛り上げるために、民間企業・団体・行政等が一体となって発信する、国産農産物の消費拡大を目的とした、新たな官民プロジェクトです。
ご興味のある方は、右のマークやアクションをおこせば、ぜひご登録・ご参加ください！

FOOD ACTION NIPPON
みんなで食料自給率アップ！

土砂と瓦礫の中で咲いた、復興のシンボル

多くの被災者を勇気付けた、「津波に負けないカーネーション」

東日本大震災の津波により、宮城県名取市のカーネーション農家は、壊滅的な被害を受けました。花の株の多くが土砂や瓦礫で押しつぶされ、全滅したかに思われましたが、泥の中から新芽が出て……。今回は、大勢の被災者に希望を与えた「津波に負けないカーネーション」の復興の軌跡をたどります。

文／吉塚さおり　写真提供／名取市花卉生産組合

震災直後は……

ハウスのほか、ボイラーや農機具など数千万円した機器も破壊された

奇跡的に芽吹いた花たち

花の耐塩性は、生産者も驚くほど

「少しでも立派な花を咲かせるために、除塩後も、土壌の分析データを参考にして、慎重に施肥管理などを行っています」と話す菅井さん

みんなの慰めになれば……と、採算度外視での出荷を決意

宮城県名取市は、大消費地の仙台市に隣接し、花き栽培がたいへん盛んな地域。とくにカーネーションは、一枚一枚の花弁の大きさと日持ちのよさから、「名取のカーネーション」としてブランド化され、東北一の生産量を誇っていました。震災前、同市の名取市花卉生産組合は、年間約380万本もの花を出荷していたといいます。

しかし、平成23年3月、東日本大震災で発生した津波により、海沿いの小塚原地区にあった園芸用ハウスの3分の1が全壊。残ったハウスにも、大量の土砂や瓦礫が流れ込みました。震災当時、組合長だった菅井俊悦（すがいしゅんえつ）さんは「ハウスにいたら瓦礫が流れ込んできて……。もう、何もかも終わりだと思いました」と、当時を振り返ります。

咲きかけていたカーネーションは、なぎ倒され、泥に覆われて無残な姿に。ところが、カーネーションのごく一部は、枯れることなく、泥の中から新しい芽を出したのです。

「芽吹いた双葉を見たときは、本当にうれしかったですね。わずかですが、希望を感じました」と、菅井さん。

震災後に倒れた株から咲いた花は、色味はやや劣るものの、きれいに洗うことで、地元の直売所で販売できることに。菅井さんたちは、被災した人々の慰めになれば、と4月下旬から一束300円で出荷を始めました。

花に対する感謝の声が、再出発の原動力に！

厳しい状況のなかで、店頭に並んだカーネーションには、大きな反響が。

「花に勇気をもらいました！」「復興のシンボルです」という声が次々に寄せられ、いつの間にか、「津波に負けないカーネーション」という呼び名がつきました。花は被災者に癒しや希望を与えるなど、金銭には代え難いものをもたらしました。

一時は廃業も考えたという菅井さんたちも、消費者の声に後押しされ、本格的な花き生産再開を決意します。

平成23年6月から、延べ500人のボランティアの手を借りて、瓦礫やヘドロを除去。9月から、東日本大震災農業生産対策交付金などを活用し、施設等の復旧を進めました。

平成24年には、長谷川豊酪農学園大学特任教授らに、微生物を使用した土地改良材を提供してもらい、塩害を克服。24年度の作付けは、震災前の約92％まで回復し「名取のカーネーション」の復活を印象付けました。

平成25年からは、フラワーアレンジメントに加工して販売するなど、6次産業化にも着手。震災前からの課題だった後継者の確保も進んでいるとか。

「ここまで来られたのは、みなさんの支援のおかげです。母の日に向け、立派なカーネーションを出荷することで、恩返しできれば」と、菅井さんは、笑顔を見せてくれました。

昨年5月、支援してくれた人々への感謝を込め、朝市で花を無償配布した

ボランティアは、販売活動も支援

表紙：大坪和酉の棚田（岡山県久米郡美咲町）
写真提供：美咲町産業課

aff 5 May 2014
平成26年5月1日発行（毎月1日発行）
agriculture・forestry・fisheries あふ

CONTENTS

2 東日本大震災からの復旧・復興に向けて
宮城県名取市 名取市花卉生産組合
4 特集1 あふちゃんといっしょに学ぼう！
新しい農業・農村政策
14 特集2 食文化研究家・清 絢の
味わい ふれあい 出会い旅
第1回／東京都江東区「深川めし」
18 アフ・ラボ
新世代農業用機械
「アイガモロボット」ただいま、開発中！
20 MAFF TOPICS
○省庁から、企業、団体まで広がってます！食品ロス削減運動
○学生に人気の就農支援イベント開催
23 読者の声／農林水産省フェイスブック
今月の「いいね！」がいっぱい！

広報誌『aff（あふ）』について

農林水産業や農山漁村は、食料の安定供給はもちろんのこと、国土や自然環境の保全、良好な景観の形成などの多面的機能の発揮を通じ、国民の皆さまの毎日の生活において重要な役割を担っております。また、農林水産行政は、生産などの現場に密着したものであると同時に、毎日の生活に深く関わっています。農林水産省では「aff」を通じ、農林水産業における先駆的な取り組みや農山漁村の魅力、食卓や消費の現状などを紹介しております。

ホームページのご案内

「aff」は、農林水産省のホームページでもご覧になれます。
http://www.maff.go.jp/j/pr/aff/

■ 編集・発行　農林水産省大臣官房総務課広報室
〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1
TEL.03-3502-8111（代表）FAX.03-3502-8766
http://www.maff.go.jp/

■ 編集協力　一般社団法人家の光協会
〒162-8448 東京都新宿区市谷船河原町11
TEL.03-3266-9045　FAX.03-3266-9046
http://www.ienohikari.net

メールマガジンのご案内

大臣メッセージや施策の紹介、イベント情報などをお届けする「農林水産省メールマガジン」を毎週金曜日に発行しております。ぜひご登録ください。無料です。
http://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/

フェイスブック・ツイッターのご案内

フェイスブック https://www.facebook.com/maffjapan
ツイッター https://twitter.com/MAFF_JAPAN

本誌に掲載した論文などで、意見にわたる部分は、それぞれ筆者の個人的見解であることをお断りします。

特集1

消費者にも役立つことがいっぱい
あふちゃんといっしょに学ぼう!

新しい農業・農村政策

文／柿野明子（p.8）、宗像幸彦（p.9・13）　写真／多田昌弘（p.8）
写真提供／美咲町産業課（p.8）、JAグリーン近江（p.9）、
栃木県上都賀農業振興事務所（p.13）
イラスト／池田須香子（p.4-5・7・12）、ひろいまきこ（p.11）

現在、わが国の農業における担い手の農地利用は全農地の約5割を占めていますが、農業従事者の高齢化や耕作放棄地の拡大など、多くの課題があり、構造改革を加速させる必要があります。そこで、農林水産省では新たに4つの改革をスタート。意欲ある農業経営者が存分にチャレンジできる環境を整備するとともに、農業・農村の多面的機能を維持・発揮し、食料自給率を向上させ、「強い農林水産業」と「美しく活力ある農山漁村」の創造を目指します。わたしたちの食を守り、美しい農山漁村を次世代に手渡すためのこの改革のポイントについて、あふちゃんとじっくり学んでみませんか?

4つの改革のポイントは?

日本型直接支払制度の創設

考え方 集落コミュニティーの共同管理などにより、農地が適切に維持され、将来にわたって多面的機能が十分に発揮されることを目指します。

概　要
- 多面的機能を支える「農地維持支払」を創設します。
- 農地・水保全管理支払を「資源向上支払」に組み替えます。

P.6へ

水田フル活用と米政策の見直し

考え方 主食用米だけでなく、麦、大豆、飼料用米などの生産を振興。需要に応じた主食用米生産が行われるよう、環境整備を進めます。

概　要
- 水田活用の直接支払交付金を充実します。
- 平成26年産から飼料用米などへの数量支払いを導入します（上限値105,000円／10a）。
- 生産者や出荷業者・団体の経営の自由度を拡大させます。

P.12へ

経営所得安定対策の見直し

考え方 従来の経営所得安定対策（旧・戸別所得補償）の構造改革にそぐわない面を見直しながら、意欲ある農業者が幅広く参加できるようにします。

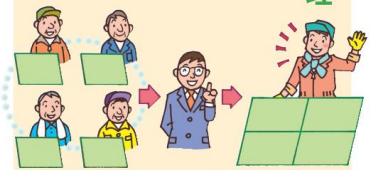
概　要
- 米の直接支払交付金の単価を平成26年産米から7,500円／10aに削減（平成30年産から廃止）。
- 米価変動補填交付金を廃止します。
- ナラシ・ゲタ対策は、平成26年産は現行どおり実施。平成27年産からは、法整備を経て新しい対象者要件で実施する予定です。

P.10へ

農地中間管理機構の創設

考え方 農地の有効利用の継続や、農業経営の効率化を進める担い手への農地利用の集積・集約化を加速します。

概　要
- 各都道府県に農地中間管理機構（農地集積バンク）を整備します。



※「農地中間管理機構」については、「aff」8月号の特集1で、詳しく紹介する予定です。

改革の背景は?

主要先進国の自給率

日本の食料自給率は、現在39%（カロリーベース）。この数字は主要先進国の中でも最低の水準です。

資料:農林水産省「食料需給表」
※数値は平成21年（日本は平成24年度）

農業を主とする担い手のいない水田集落

全国の水田集落のうち、担い手がいない集落が半数を占めています。そうした集落・地域では、5～10年後には生産力が急激に落ちることが懸念されています。

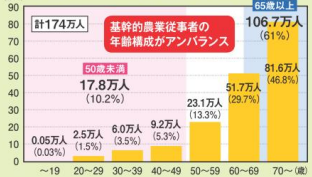
資料:農林水産省統計部「2010年農林業センサス」（組替集計）

耕作放棄地の動向

耕作放棄地面積は、高齢者のリタイアなどに伴い急激に拡大。とくに、土地持ちの非農家※の所有する農地の耕作放棄が急増しており、全体の半分を占めています。

資料:農林水産省統計部「農林業センサス」より作成
※農家以外で耕地および耕作放棄地を5a以上所有している世帯

年齢階層別の基幹的農業従事者数（平成25年）



基幹的農業従事者（農業就業人口のうち、普段仕事として主に農業に従事している者）の数を年代別に見てみると、65歳以上が61%、50歳未満は約10%。とてもアンバランスな状況となっています。

資料:農林水産省「農業構造動態調査（概数）」（組替集計）

日本型直接支払制度ってなに？

農業・農村の多面的機能を維持・発揮するための地域活動などに対して支援する制度です

農業・農村には、国土の保全、水源のかん養、良好な景観の形成などの多面的機能があります。こうした機能は、農村だけでなく、都市住民の生活にも役立つもので、国民全体の暮らしを支えています。

しかし近年、農村地域の高齢化、人口の減少などで、農業生産に伴う地域の共同活動などにより支えられてきた多面的機能の発揮に支障が生じつつあります。

また、地域の共同活動が縮小すると、水路、農道などの地域資源の維持管理における、担い手の負担が増大。担い手の規模拡大が阻害されることも懸念される状況です。

このため、農業を産業として強くしていく「産業政策」と車の両輪をなす「地域政策」として、農業・農村の多面的機能の維持・発揮のための地域活動や営農活動に対しての支援が求められています。多面的機能が、今後も適切に発揮されるようにすることが必要です。

こんな制度待ってました！

制度の全体像

農地維持支払（創設）

多面的機能を支える共同活動を支援します。

※担い手に集中する水路・農道などの管理を地域で支え、農地集積を後押し

【支援対象】
- 農地法面の草刈り、水路の泥上げ、農道の路面維持などの基礎的保全活動
- 農村の構造変化に対応した体制の拡充・強化、保全管理構想の作成　など

農地法面の草刈り

水路の泥上げ

資源向上支払（組替）

地域資源（農地、水路、農道など）の質的向上を図る共同活動を支援します。

【支援対象】
- 水路、農道、ため池の軽微な補修
- 植栽による景観形成、ビオトープづくり
- 施設の長寿命化のための活動　など

※現行の農地・水保全管理支払を組み替え、名称を変更します。

水路のひび割れ補修

植栽活動

中山間地域等直接支払（現行維持）

中山間地域などの条件不利地域（傾斜地など）と平地とのコスト差（生産費）を支援します。

環境保全型農業直接支援

環境保全効果の高い営農活動を行うことに伴う追加的コストを支援します。

ところで

農業・農村の多面的機能ってなに？

農業・農村は、米や野菜などを生産するだけでなく、わたしたちの暮らしに大切なさまざまな役割を担っています。それらを「農業・農村の多面的機能」といいます。

① 洪水を防ぐ機能
田んぼなどに雨水を一時的に貯め、時間をかけて徐々に流すことで、下流の地域を洪水から守っています。

② 土砂崩れを防ぐ機能
傾斜地にある棚田などは、日々の生産活動を通じた管理により、斜面の崩壊を未然に防いでいます。

③ 土の流出を防ぐ機能
田んぼに水を張ることなどで、養分に富んだ土壌の流出を防ぎます。

④ 川の流れを安定させる機能
田んぼに降った雨などは地下に浸透し、その一部は、時間をかけて排水路を流れたり、湧出などにより河川に流れ、水量が安定的に保たれます。

⑤ 地下水をつくる機能
田んぼなどの水が、地中にしみ込み、地下水として蓄えられ、生活用水などに利用されます。このほかにも、

⑥ 暑さをやわらげる機能

⑦ 生きもののすみかになる機能

⑧ 農村の景観を保全する機能

⑨ 文化を伝承する機能

⑩ 癒し・安らぎをもたらす機能

⑪ 体験学習と教育の機能
など、多くの機能があります。

農業・農村はさまざまな役割を果たすことで、わたしたちのいのちと暮らしを支えているのです。

日本型直接支払制度を活用した、取り組み例を見にいこー

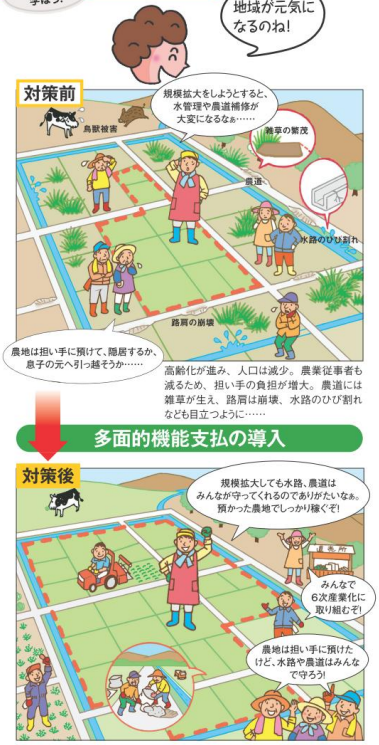
日本型直接支払制度が始まるとどんなメリットがあるの？

多面的機能の発揮の促進に加え、担い手への農地集積という構造改革を後押し 地域の活性化も期待されます

都市部では、道路や水路の管理費用を行政が負担しています。それに対して農村では、これまで地域の住民の共同活動により、集落内の水路や農道を守っていました。こうして農業・農村の多面的機能を維持してきたのです。

しかし、農業者の高齢化や人口の減少により集落活動が低迷。このまま高齢化が進むと、水路や農道などの保全・補修にかかる地域の農業の担い手の負担が増大します。農地を預けた人の中には地域を離れる人も。

そこで、水路や農道などを保全・補修する地域の共同活動に対して支援します。そうすることで、農業・農村の多面的機能の発揮が促進されることに加えて、担い手の負担が軽減され、安心して規模拡大に取り組めるようになり、担い手への農地集積という構造改革の後押しにつながります。また、担い手を支える集落の共同活動や、担い手以外の人たちを含めた6次産業化や都市との交流が活発になり、さらに地域が活性化することが期待されます。



水路や農道の管理などを共同で行うことで、担い手の負担を軽減。担い手が安心して規模拡大に取り組めるように。さらに、6次産業化に取り組む人が増え、地域の活力もアップ

中山間地域等直接支払を生かして!

風光明媚な「境の棚田」がある一方で、過疎や高齢化が年々深刻に……。そこで、制度を活用し、鳥獣害対策を進め、米の代わりに「紅そば」も育てたら、一躍、人気スポットに!

農事組合法人境【岡山県久米郡美咲町境地区】

9月下旬～10月初旬がソバの花の見ごろ!

ソバを栽培して、耕作放棄地が2ha解消

「直接支払を利用して、イノシシ防護用の電気柵を、約12km設置しました」と説明する石坂徹泰さん

美しい「境の棚田」が広がる、岡山県美咲町境地区。近隣には、日本の棚田百選に認定された「大垪和西の棚田」もある地域です。その一方、地区では、高齢化率が40％を超え、過疎化や担い手不足、耕作放棄地の拡大などが、問題になっていました。

「水田がイノシシに荒らされる被害が多くてねぇ。それに、棚田は畦の草刈りも大変で。米作りを続けられない高齢者が増えていたんです」と、農事組合法人境の代表理事を務める石坂徹泰さんは話します。

そこで地区では、中山間地域等直接支払を活用して、まず棚田にイノシシ防護用の電気柵を設置しました。その後、保全のメドがついた棚田で、新しく栽培を始めたのが「紅そば」です。

「赤い花が咲く、『高嶺ルビー』」という品種です。ソバは米に比べて、手間がかからないので、高齢者でも栽培しやすいんですよ」と石坂さん。

40aから始まった「紅そば」の栽培面積は2haに、ソバ全体では12haにまで増加。秋になると、美しい花が咲く棚田を見に、大勢の人がやって来るようになりました。さらに、平成15年にオープンした、棚田のそば屋「紅そば亭」も、年間約1万人が訪れる人気店に。

「紅そば亭が地元の人と、観光客の交流の場にもなっているんですよ」と、石坂さんはほほ笑みます。

農林水産省では、紹介した境地区のように、過疎や高齢化などに悩む中山間地を元気にするための支援を続けています。

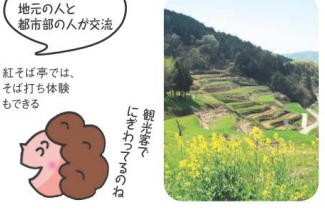
使われる野菜も、棚田で栽培され、農地利用が活発に

ゴボウやニンジン、ネギ、鶏肉などの具が入った「境そば」800円。店の一番人気

体験をしながら、地元の人と都市部の人が交流

紅そば亭では、そば打ち体験もできる

棚田のそば屋「紅そば亭」
岡山県久米郡美咲町境1371
営業時間:11時～15時
水曜定休　TEL:0868-68-0661



観光客でにぎわってるのね

環境保全型農業直接支援を生かして!

目指したのは、〝琵琶湖の水を汚さない農業〟支援を活用して、環境にやさしいブロッコリー栽培を、地域一丸となって拡大中!

JAグリーン近江大中の湖ブロッコリー生産部会【滋賀県近江八幡市】

夏場にハウスで栽培された苗は、お盆過ぎから秋口にかけて品種ごとに定植。収穫は、11月上旬から3月下旬まで

部会には13軒の農家が所属。作付け面積13ha中、9.4haで支援対象となる取り組みを実施

「農業と環境保全の両立を実践しています」と部会長の藤村政夫さん

「琵琶湖の水質保全は大きな課題で、農業排水対策もその一つ。そこで、化学肥料や農薬が流れ込まないよう、環境にやさしい野菜作りを進めているんです」と話すのは、JAグリーン近江の三上富男さん。

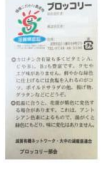
琵琶湖の東岸に位置する滋賀県近江八幡市大中地区は、琵琶湖の内湖を干拓した農業地帯です。その肥沃な土壌で、JAグリーン近江大中の湖ブロッコリー生産部会は、早くから「化学肥料および農薬の5割低減」に取り組んできました。

そんな折、平成23年に環境保全型農業直接支援対策がスタート。土壌中に二酸化炭素の構成元素である炭素をとどめることで地球温暖化防止に役立つとともに、水質保全にもつながる取り組みとして、堆肥を使ったブロッコリー栽培を始めました。また、水稲栽培のカメムシ対策として、同じく支援を活用して、水田周辺の草刈りなどにより農薬の削減にも力を入れています。こうした取り組みが、琵琶湖の水質など環境保全につながっているのです。

「堆肥の購入代は、農家にとって負担になるので、支援を活用できるようになって助かってます」と話す、部会長の藤村政夫さん。

こうして栽培したブロッコリーは、県の「環境こだわり農産物認証」も取得。食への意識が高い消費者から、人気を集めています。

農林水産省では、紹介したブロッコリー生産部会のように、地域の環境のことを考えた農業を実践する農業者への支援を続けていきます。



滋賀県の「環境こだわり農産物認証」を取得し、ブランド化

環境に配慮する農家を応援してるのね

経営所得安定対策の見直しの要点を教えて!

意欲ある農業者が幅広く参加できるようになる予定です

これまでの経営所得安定対策（旧・戸別所得補償）については、高い関税により守られている米について、すべての販売農家に対して、一律に10a当たり1万5千円を支払うなど構造改革にそぐわない面がありました。そこで今回の改革では、米の直接支払交付金や米価変動補填交付金について、工程を明らかにしたうえで廃止することとしました。

一方、米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）、畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）は、法整備を経て、平成27年産から一律の規模要件を外し、意欲ある農業者が幅広く参加できるようにする予定です。

麦や大豆の作付けにチャレンジの巻

収入が減っても、安心して農業経営ができて、ホッの巻

畑作物の直接支払交付金（ゲタ対策）とは

諸外国との生産条件の格差により不利がある作物（麦・大豆など）を生産する農家に対しての交付金です。引き続き、生産コストと販売価格の差に相当する額を直接交付します。

❶交付対象者

販売目的で対象作物を生産（耕作）する「販売農家」「集落営農」。
※平成27年産からは、法整備を経て、認定農業者、集落営農、認定新規就農者を対象に実施する予定です（いずれも規模要件は課しません）。

❷対象作物

麦（小麦、二条大麦、六条大麦、はだか麦）、大豆、てん菜、でん粉原用ばれいしょ、そば、なたね

❸支払方法

支払いについては、数量払を基本とし、面積払（営農継続支払）をその内金として支払います。

数量払

【交付対象数量】
麦、大豆、てん菜、でん粉原用ばれいしょ、そば、なたねの当年産の出荷・販売数量

【交付単価（全国一律）】
全算入生産費をベースに算定した「標準的な生産費」と「標準的な販売価格」との差額分を、単位数量当たりの単価で直接交付します。また、麦・大豆などの畑作物については、地域間、農業者間の品質の格差が大きいため、品質に応じて単価の増減を行います。

面積払（営農継続支払）

【交付対象面積】
麦、大豆、てん菜、でん粉原用ばれいしょ、そば、なたねの生産面積
平成26年産は、これまでどおり前年産の生産面積（前年産の生産数量を都道府県別の前年産の実単収で割り戻した面積）に基づき支払います。平成27年産からは、当年産の作付け面積に基づき支払う予定です。

【交付単価】 20,000円／10a
（そばは13,000円／10a）

数量払と面積払（営農継続支払）の関係

米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）とは

収入減少による農業経営への影響を緩和し、安定的な農業経営ができるよう、農業者拠出に基づくセーフティーネットとして引き続き実施します。

❶交付対象者

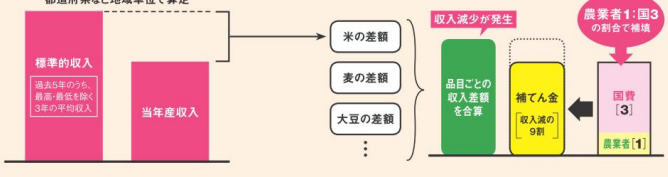
認定農業者・集落営農のうち一定規模以上の者（都府県4ha、北海道10ha、集落営農20ha以上など、市町村特認あり）
※平成27年産からは、法整備を経て、認定農業者、集落営農、認定新規就農者を対象に実施する予定です（いずれも規模要件は課しません）。

❷交付対象品目

米、麦、大豆、てん菜、でん粉原用ばれいしょ

❸補てん額

当年産の販売収入の合計が、標準的収入を下回った場合に、その差額の9割を、国からの交付金と農業者が積み立てた積立金で補てんします。
国からの交付金は、農業者が積み立てた積立金の3倍が上限です。



水田フル活用と米政策、どう見直されたのか教えて！

水田フル活用は 水田で麦、大豆、飼料用米、米粉用米などを生産する農業者へ、交付金を直接交付します

国土が狭く、農地面積も限られている日本では、主食である米の安定供給、食料自給率・自給力の向上などを図るためには、水田を最大限に有効利用することが重要です。

そこで、まず需要に合った主食用米の生産を進めつつ、飼料用米や加工用米といった多様な米の生産振興を図ります。さらに、小麦や大豆など、需要の多くを海外からの輸入でまかなっている品目について、作付けを拡大します。

具体的には、水田で麦、大豆、飼料用米、米粉用米などの作物を生産する農家に対して、交付金を直接交付（水田活用の直接支払交付金）することにより、地域の特色ある農産物の産地づくりを支援し、水田のフル活用を図ります。

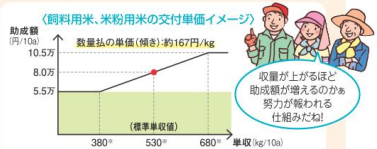
水田活用の直接支払交付金

【支援内容】 ❶戦略作物助成

対象作物	交付単位
麦、大豆、飼料作物	35,000円/10a
WCS（稲発酵粗飼料）用稲	80,000円/10a
加工用米	20,000円/10a
飼料用米、米粉用米	収量に応じ、55,000円～105,000円/10a

飼料用米と米粉用米への支援の仕組みが変わるんだね

（飼料用米、米粉用米の交付単価イメージ）



●数量払による助成については、農産物検査機関による数量確認を受けていることを条件とします。
●※は全国平均の平年単収（標準単収値）に基づく数値であり、各地域への適用に当たっては、市町村などが当該地域に応じて定めている単収（配分単収）を適用します。

❷二毛作助成

水田における主食用米と戦略作物助成の対象作物、または戦略作物助成の対象作物同士の組み合わせによる二毛作を支援します。

15,000円/10a

作付けパターン（例）	交付金額（10a当たり）
主食用米＋麦	（米の直接支払）＋1.5万円
麦＋大豆	3.5万円＋1.5万円
飼料用米＋麦	5.5～10.5万円＋1.5万円
米粉用米＋飼料用米	5.5～10.5万円＋1.5万円

❸耕畜連携助成

耕畜連携の取り組み（飼料用米のわら利用、水田放牧、資源循環）を支援します。 **13,000円/10a**

❹産地交付金

▶地域で作成する「水田フル活用ビジョン」に基づく、①水田における麦、大豆などの生産性向上などの取り組み、②地域振興作物や備蓄米の生産の取り組みなどを支援します。
▶国から配分する資金枠の範囲内で、都道府県や地域農業再生協議会が助成内容（交付対象作物・取り組み・単価など）を設定できます。
▶また、地域の取り組みに応じた追加配分（下表参照）を行います。

対象作物	取り組み内容	追加配分単価
飼料用米 米粉用米	多収性専用品種への取り組み	12,000円/10a
加工用米	複数年契約（3年間）の取り組み	12,000円/10a
備蓄米	平成26年産政府備蓄米の買入入札における落札 ※平成23年産に県別優先枠として配分した6万tについては対象外。	7,500円/10a
そば、なたね	作付けの取り組み	20,000円/10a（基幹作） 15,000円/10a（二毛作）

水田活用の直接支払交付金を生かして！

農機具代や肥料代は、交付金でカバー 飼料用米の収量を増やしてやりがいもアップ！

亀和田・北赤塚営農組合【栃木県鹿沼市】

栃木県鹿沼市の亀和田・北赤塚営農組合では、飼料用米の栽培に特化した取り組みを行っています。

組合設立当初は、飼料用のデントコーンを栽培していました。しかし、草丈が高いため見通しが悪く、小学生の通学路としても、安全面や防犯面から問題があるということで、飼料用米に切り替えました。

販売単価は食用米に劣るものの、育苗などが不要で低コストな、鉄コーティング湛水直播栽培を行い、カバー。品質も収量も、通常の移植栽培と同等レベルになっています。

栽培面積は、19haから35haへと、拡大中

鉄粉でコーティングした稲の乾燥種子を直播

「飼料業者とのつながりで、販売ルートが確保できてよかった」と福田裕さん

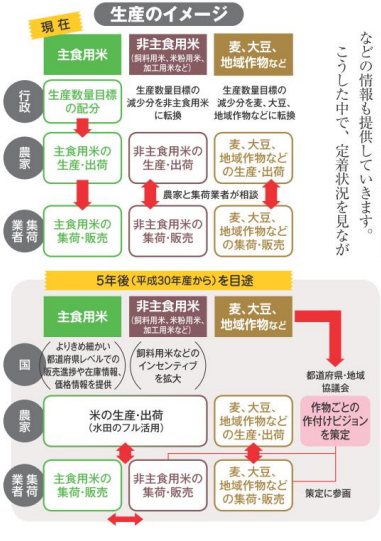
米政策は 生産者や集荷業者・団体が、どのような米をいくら生産・販売するか、決められるようになります

これまでは、行政ルートにより、生産数量目標を個々の農家に提供していました。しかし、それでは現場に近づくほど、一律的な配分とならざるを得ないため、生産数量目標と実際の販売実績・販売力とのギャップが発生していました。

そこで、農林水産省は、今後全国ベースの需給見通しの情報に加え、産地別の需要実績や販売進捗・在庫などの情報も提供していきます。

こうした中で、定着状況を見ながら、5年後（平成30年産から）を目途に、行政による生産数量目標の配分に頼らなくても、需要に応じた主食用米の生産が行われるように環境を整備。

生産者や集荷業者・団体が、需要に応じてどのような米をいくら生産・販売するか決められるようになり、経営の自由度が拡大します。



特集2

食文化研究家・清絢（きよし・あや）の 味わい ふれあい 出会い旅

お寺に生まれ、近所のおばあさんたちが持ち寄る郷土料理に育まれて成長し、いつしか、食文化研究家に。そんなわたくし清絢が、日本各地の郷土食を訪ねて歩きます。作り方はもちろん気になるけど、それ以上にふるさとの味を守る、素敵な人たちにもたくさん出会いたいと思っています。第1回目は、かつて漁師町だったというこの町で、「深川めし」のルーツを探します。ほら、濃厚な味噌の香りが、ふわ〜っと漂ってきましたよ。

文／清絢　写真／川端正吾
イラスト／竜田麻衣

「深川めし」のルーツを巡る下町探訪

第1回 東京都江東区

清絢（きよし・あや）
大阪府出身。日本各地の農山漁村を訪ね、伝統的な食文化や暮らしについて、調査研究を行う。日本の食文化を次世代へ継承するために、執筆、講演など、さまざまな形で活動中。

富岡八幡宮

まずは江戸最大の八幡様で かってのにぎわいを 思い浮かべて……

（上）八幡宮は、江戸の勧進相撲発祥の地で、100年にわたり境内で相撲が開催。力士の身長の碑は、わたしの2倍ほどの高さも！（下）堂々たる横綱力士碑の横には「魚がし」の文字が

『江戸方角安見図』（延宝8年/1680年）に描かれた富岡八幡宮（当時は永代島八幡宮）。一帯はかつて永代島という東京湾に浮かぶ島だった

徒歩15分

徒歩5分

深川不動堂

江戸庶民が信仰した「深川のお不動様」はぶってもいいんですね〜

（上）直接手で触れながら願をかける「おねがい不動尊」。材質は樹齢700年以上のクスノキ。（中）イワシを乾燥させた肥料「干鰯」の仲買問屋が寄進した石板。（下）千葉県の成田山新勝寺からお不動様を運び、この地で定期的に出開帳していた

東京の東部、江東区にある深川。江戸の下町情緒あふれるこの町で、江戸時代に、地元漁師の日常食だったという深川めしを訪ねました。

まずは、伝統の味を育んだ町をよく知りたいと思い、富岡八幡宮へ。寛永4（1627）年創建のこの神社では、深川の歴史や文化を深く研究されている神職の松木伸也さんからお話を伺いました。

「創建当初、今の八幡宮のまわりは海で、永代島という東京湾に浮かぶ島だったんですよ」と松木さん。

「江戸の人口が増えるにつれて、島の周囲が埋め立てられ、計画的に運河や船着場も整備され、漁師さんや船頭さんなどが多く集まる町になりました。そのため、八幡宮の氏子にも当時は漁師が多かったのです」と松木さんは静かに語ります。

深川に、海にまつわる仕事をする人々が多かったことは、すぐそばの深川不動堂を見てもわかります。

境内には、信者が寄進した石碑などが並んでいますが、そのなかに、「魚がし」や「干鰯」の文字がいくつも。漁業関係の人たちでにぎわっていた時代に、思いをはせました。

深川めし（ぶっかけ）の作り方

●材料（3〜4人前）
アサリ（むき身）……300g
白味噌……30g
赤味噌……160g
砂糖……40g
酒……大さじ2杯
みりん……大さじ2〜3杯
水……2〜3カップ
長ネギ……2本
炊きたてのご飯……どんぶり3〜4杯分

白味噌、赤味噌、砂糖、酒、みりんを混ぜておく。鍋に水を入れて火にかけ、沸騰したら、混ぜ合わせた味噌を溶き入れる。

味噌が溶けたら、アサリを加える。

食べやすい大きさに、斜め切りにした長ネギを加える。

長ネギが透き通るくらいまで火が通ったら、火を止める。どんぶりに炊きたてのご飯を入れ、汁ごと具をかける。

深川宿

いよいよ地元の漁師直伝、ぶっかけ飯をいただきまーす！

店の看板メニュー「深川めし」と、炊き込みご飯の「浜松風」。国産の大ぶりなアサリにこだわり、木更津産などを使用。煮物、吸い物、お新香、甘味付きで各1,950円（税込み）

深川江戸資料館

江戸時代の深川に迷い込んだような不思議気分……

天保12年ごろの深川佐賀町の町並みを実物大で再現した展示は、江戸時代に迷い込んだよう。アサリやシジミの「むきみ」を天秤棒で担いで売り歩いた棒手振の長屋

徒歩30秒

さて、町の成り立ちを尋ねたあとは、深川江戸資料館で、江戸時代へとタイムスリップ。こちらには、天保12（1841）年ごろの深川佐賀町の町並みが、実物大で再現されています。

深川に漁師町ができたのは寛永6（1629）年。隅田川河口の東側に広がっていた干潟を埋め立てて作られました。当時、深川でとれた魚介類は、キス、イシガレイ、ホウボウ、コダイ、アイナメ、さらにシバエビやカキなど、多種多様です。

なかでも、とくに有名だったのが貝類で、再現された町並みにも、アサリやシジミといった貝のむき身を扱った漁師の家を発見。アサリやアオヤギは東京湾で大量にとれたため、漁師たちの船上でのまかないとなりました。その頃は海水や味噌で煮た貝のむき身を、ご飯の上に豪快にかけたどんぶりでした。近代に入り工場が立ち並ぶと、このぶっかけ飯が屋台で売られ、深川を代表する郷土食の「深川めし」として知られるようになりました。

そしてついに、いちばんのお目当て、深川めしの老舗「深川宿」へ。資料館の目の前にあるので、江戸っ子気分のまま、深川めしを味わえます。

深川めしを出すお店は多数ありますが、その多くはアサリの炊き込みご飯。「深川には木場があり、材木を扱う大工がいっぱいいてね。彼らがアサリの炊き込みご飯を掘り飯や弁当にしたのがルーツじゃないかな」と店主の日東寺隆美さんは話してくれました。

深川宿では、漁師たちが好んだ〝ぶっかけ飯〟スタイルの深川めしを出しています。

30年ほど前に日東寺さんは、消えゆく深川めしを残念に思い、古老の漁師から家庭で食べた味を聞き、実際に作ってもらったそうです。

「そのときの深川めしは、アサリとぶつ切りのネギが入った塩辛い味噌汁を、ご飯にかけただけの素朴な味でね」と日東寺さん。

それをベースに、味噌を数種類ブレンドし、みりんなどを加えて食べやすくしたものをメニューに。

手際よく調理された深川めしは、まさに日本人が愛してやまない〝うまみ〟を味わえる一杯でした。

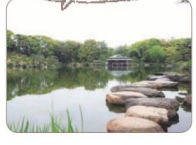
今では現役の漁師はいなくなりましたが、その町並みや今も愛される地元の味に、漁師町としての名残りを感じます。深川めしは、当時の町や人々の活気が感じられる〝タイムカプセル〟のようでした。

散歩のおとも

たくさんの野菜が入った具がぎっしり！

明治10年創業の「カトレア」（創業時は名花堂）の「元祖カレーパン」。昭和2年に、カレーライスとカツレツを合わせて考案

ちょこっと寄り道



深川江戸資料館や深川宿から歩いて5分ほどのところにある「清澄庭園」。大きな池のまわりには、四季折々の花や日本全国の名石も

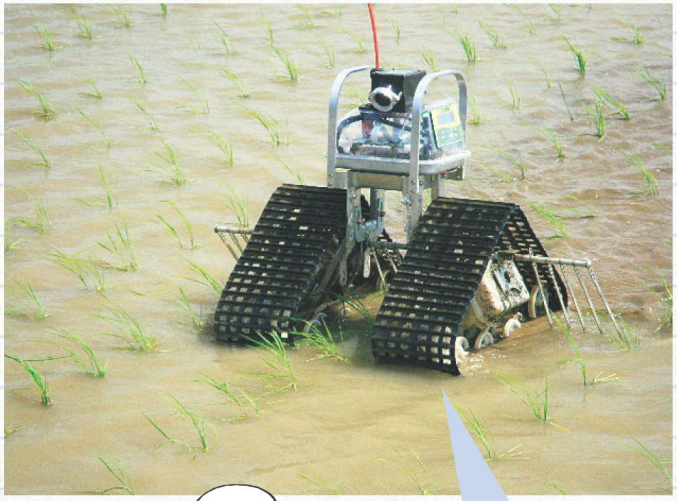
❶ 富岡八幡宮	江東区富岡1-20-3	☎03-3642-1315
❷ 深川不動堂	江東区富岡1-17-13	☎03-3641-8288
❸ 深川江戸資料館	江東区白河1-3-28 第2、4月曜（祝日の場合は翌日）、年末年始休	☎03-3630-8625
❹ 深川宿	江東区三好1-6-7 月曜（祝日の場合は翌日）休	☎03-3642-7878
❺ 清澄庭園	江東区清澄3-3-9 年末年始休	☎03-3641-5892
❻ カトレア	江東区森下1-6-10 日曜、祝日の月曜休	☎03-3635-1464

新世代農業用機械「アイガモロボット」ただいま、開発中!

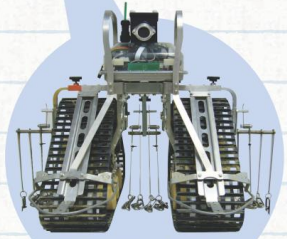
処理能力は、1時間で10a!(約1反)

田んぼの雑草対策は、農家にとって手間のかかる作業の一つです。そんな負担を軽減する、画期的なロボットが登場! 開発のヒントは、なんと愛らしいアイガモで、商品化も間近のようです。

文/宗像幸彦



岐阜県情報技術研究所の研究員によるアイガモロボットの実験中。自律走行が基本ですが、ラジコンでも動かせる



動力源はバッテリー。1回8時間の充電で約3時間の走行が可能。ガソリンなども使わないため、環境にやさしい

アイガモが泳いだ後は、いつも水が濁る

田んぼで苗がすくすくと育つと同時に、いっしょに伸びる雑草。駆除するには、雑草の生長を阻害するシートを敷いたり、チェーンや手押し車で雑草を掻き出す方法などが一般的ですが、どれも重労働なのがネックでした。

そこで農家の負担を少しでも減らすため、岐阜県情報技術研究所等で開発されているのが、自走して雑草対策をする賢いロボット、通称「アイガモロボット」です。

開発のきっかけは、10年前。除草を研究していた岐阜県中山間農業研究所の研究員がアイガモを使った田んぼの除草を見学中に、ふと気付いたのです。

「あれ、アイガモが泳ぐ田んぼの水は、泥が掻き回されていつも濁ってるぞ。もしかして、この濁りが除草にとって重要なのかも?」

調べてみると、アイガモの足が掻き出した泥で水が濁り、雑草の光合成を阻害していることが判明。「この動きを再現すれば、草取り人が平地を歩く速さと同じ、時速4kmで田んぼの中を自走しながら、1時間で約10aを処理できるほどまで性能が向上しました。

残る課題は、完璧な自律走行のみ

平成15年から約10年続けた開発も、いよいよ大詰め。計画は実用化の一歩手前まで漕ぎ着けています。

今も苦心しているのは、自律走行。アイガモロボットは、頭部のカメラで田んぼの中を撮影し、画像処理によって、稲の列に沿って動き、1列が終わったら、自動で次の稲列へ移動します。しかし、稲列の終わりを認識できず、うまく移動できないことがまれにあるとか。それでも、情報技術研究所の研究員は完成に自信をのぞかせます。

「画像処理の方法を改良することで、稲列の終端を確実に判断できるようになれば実用化に近づきます」と、力強く語ります。

まさに、開発者たちの汗と努力が詰まったアイガモロボット。岡山県の農機具メーカー「みのる産業㈱」も途中から研究開発に加わり、市販を検討中とか。

草取りはロボットに任せて、農家のみなさんはのんびり一休み……なんて日も近いようですね。

アイガモの課題を、アイガモロボットが克服!

アイガモの課題

- 飼育に手間がかかる
- エサ代などのコストがかかる
- アイガモが水田内をまんべんなく回らなかったり、外敵(イヌ、ネコ、カラス)に襲われる可能性も

アイガモロボットでは……

- ○重さ約10kgという小型軽量で、運搬や取り回しも楽
- ○バッテリー駆動なので、音も静かで低コスト。エンジン使用時のオイルや排気ガスの排出もない
- ○センサーで自走するため、手間いらず

田んぼで働くアイガモはかわいらしいけど、アイガモロボットの方がずっと便利かも

ロボットが作れるかも。しかも、アイガモと違って、世話をする手間もお金もかからず、だんぜん経済的!」とひらめきました。農業研究所では機械の開発は専門外なので、ロボット開発が可能な岐阜県情報技術研究所に話を持ち込み、アイガモロボットの開発がスタートしました。

しかし、アイガモの動きをロボットで行うのは至難の業。開発は苦難の連続でした。

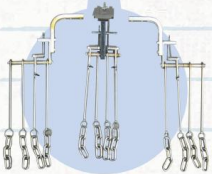
泥を掻き回す方法を、どう再現すればよいか、さっぱりわからないところからのスタート。本体を船型にしてスクリューをつけても、ただ水面を走るだけ。4輪駆動のラジコンカーも試しましたが、泥に足を取られて進みませんでした。

試行錯誤の末、ついにたどり着いたのは、キャタピラ状の駆動方式です。これにより、発芽したての雑草を掻き出し、さらに水中の泥を舞い上がらせることも可能になりました。

その後も改良を重ね、現在では

アイガモロボットはこんなにすごい!

全長50cm×幅45cm×高さ50cmで、ボディはアルミ製。幅広のキャタピラで田んぼをかき混ぜる



付属のチェーンで、稲間に生えた雑草を処理する

MAFFとは農林水産省の英語表記「Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries」の略称です。
MAFF TOPICSでは農林水産省のお知らせを中心に、暮らしに役立つさまざまな情報をお届けします。

MAFF TOPICS

食べものに、
もったいないを、
もういちど。
NO-FOODLOSS PROJECT

涙を流す皿の絵で、「もったいない」精神を表現したロゴマーク「ろすのん」。食品ロス削減を推進する企業、団体は農林水産省に申請して使用できる

食品ロス削減家電も登場！

内部の石臼が回転し、茶葉を粉末状に挽く「ヘルシオお茶プレッソ」。茶葉をまるごと摂取するので茶殻が出ない。市場実勢価格は2万5000円前後

お客様に「もったいない」を呼びかけ中！

東京都銀座にある「みのりカフェ」と「みのる食堂」では、店内に25個ほど「ろすのん」を置き、お客様に食品ロス削減を呼びかけている

フードバンク活動で約4500tの食品ロスを削減！

昨年フードバンク活動が、全国で食料を必要とした人に届けた食品は約4500tにもなる。食品を提供する企業も社会貢献ができると同時に、廃棄コストの削減ができるメリットがある

合言葉は「もったいない！」

省庁から、企業、団体まで広がってます！ 食品ロス削減運動

文／小林裕幸

「食品ロス」とは、本来食べられるのに廃棄されている食品のこと。国内では年間推定約500万～800万tもの食品ロスが生まれています。そこで、政府や、企業、団体などが、それぞれの立場で、食品ロス削減の取り組みを実施中です。

食べられるのに廃棄される食品を、必要な人へ

平成26年3月26日、農林水産省が後援する「食品産業もったいない大賞」の第一回表彰式が、東京都千代田区のイイノホールで行われました。この表彰式で「食品ロス削減への貢献により、食料産業局長賞を受賞したのが、セカンドハーベスト・ジャパンのフードバンク活動です。

「フードバンク活動」とは、梱包上の穴やへこみ、パッケージデザインの変更などにより、まだ食べられるのに廃棄される食品の寄贈を、企業や団体に呼びかけるもの。寄贈された食品は、生活困窮者や児童養護施設などに配給されます。

セカンドハーベスト・ジャパンが活動を開始した平成14年以降、累計で1万141t（約47・9億円相当）もの食品が集まりました。セカンドハーベスト・ジャパン広報室長の井出留美さんは、「その日の食事にも困っている、とくに緊急を要する生活困窮者へ、食品を届けるセーフティーネットの構築を目指しています。同時に、食品ロスも削減できたら理想的ですね」と語ります。

「ろすのん」マークで、食品ロスへの意識向上

食品ロス削減活動を推進するため、農林水産省と関係各府省庁では現在、「NO-FOODLOSSプロジェクト」という運動を展開中。この運動のシンボルマークとして、農林水産省が作成したのが、赤い鼻に涙目が印象的な「ろすのん」です。この「ろすのん」を、多くの団体や企業が活用することで、食品ロスへの意識向上を呼びかける狙いです。

このマークを使用する企業には、意外にも家電メーカーも名を連ねています。シャープ株式会社では、新製品が食品ロスの削減につながると認められ、販売促進策に「ろすのん」マークの使用許諾を受けました。第一弾は、「ヘルシオお茶プレッソ」。この商品は、茶葉を細かく挽いて粉末状にすることで、お茶の健康成分を余すところなく摂取できるうえ、茶殻も一切出ないスグレモノです。

「お茶の健康成分を、全部摂りたい」というお客様のニーズに応えた結果、図らずも、食品ロスを削減する、ユニークな商品が誕生したんです」と、シャープ株式会社広報部の岡田敏昭さんは話します。

一方、東京都銀座にある「みのりカフェ・みのる食堂（JA全農直営）でも「ろすのん」マークを活用。各テーブルのうえに、食品ロス削減のメッセージを印刷した「ろすのん」ポップを置いて、食品ロスの意識向上を呼びかけています。

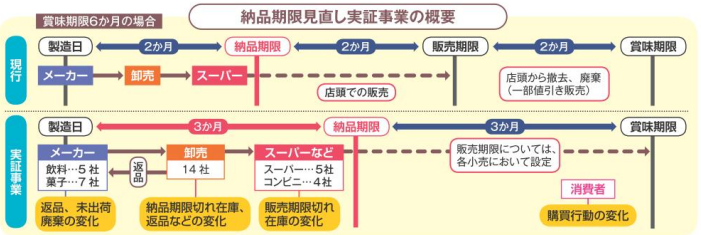
農林水産省では、「ろすのん」マークをさらに浸透させるため、活動に賛同する企業や団体を募集しています。

「もったいない」のスタートは、わが家の冷蔵庫から

食品ロスの削減に熱心な食品業界では、「納品期限の見直し」により、食品ロス削減を狙っています。納品期限とは、製造された食品がスーパーなどの小売に納品される期限として、慣習的に設定されていたもの。この納品期限を過ぎた食品は賞味期限が残っているにもかかわらず廃棄されるものもありますが、この期限を見直し、現在より延長することで食品ロスを削減する試みがスタートしています。

昨年のaff9月号のMAFF TOPICSでもご紹介しましたが、食品の製造・卸・小売を営む企業35社が昨年8月から半年間、飲料と菓子の一部品目で納品期限を延長する実証事業を実施。その結果、飲料と賞味期限180日以上の菓子で約4万t、金額にして約87億円という大きな食品ロス削減効果があることがわかりました。農林水産省や今回の実験に参加した企業では、この結果を受けて、より多くの企業に納品期限の延長を呼びかけていく予定です。

このように各業界が食品ロス削減に向け努力をしていますが、わたしたち消費者一人一人の心掛けも大切です。「食品の買いすぎに注意」「冷蔵庫を整理して賞味期限の迫ったものから順に食べる」「食べ残しに気をつける」など……。日頃から、「もったいない」精神を忘れないようにしたいものです。



※販売期限は、小売店が商品管理の必要性から独自に設定する、店頭で商品を販売する期限のこと

読者の声

「aff」読者から寄せられたご意見やご感想を紹介します。

◆特集１、夢を追いかけて酪農ヘルパーで、酪農の見直しから後継者への意欲ある笑顔に感心しました。やる気が興す未来に向かっての発展に期待を持ち、何度も読みたくなる心温まる記事でした。（男性）

◆酪農ヘルパーの活動を初めて知りました。休みも自由に取れず、牛達中心の生活、地味で忙しい日々。毎日（当たり前に）いただいている牛乳の味がまたひと味違うものとなりました。どうもありがとう。（男性）

◆酪農家は生き物が相手で休みもなく大変だろうなといつも思ってました。酪農ヘルパーというのがあるのを知ってホッとしています。ヘルパーという仕事は責任重大で大変と思いますが頑張ってほしいですね。モア・ハウスのきのこごはんの素は大木町までなら買いに行けるので早速行きたいと思います。（女性）

◆若者が自分の夢に向かって色々な人とかかわっている様子、酪農ヘルパーとして一人前に成るよう願っています。（男性）

◆酪農ヘルパーという職業があること、知りませんでした。とても良い制度ですね。島根県内にも７組合もあること。必要な職業だと、感動しました。一日も休まず作業のある酪農の大変さもよくわかりました。いろんな方のお陰で私たち消費者は生活できていると、感謝の気持ちでいっぱいです。（女性）

◆チーム力で輝けといとこ煮の女性達のイキイキ感がすごく良い。（女性）

◆静子おばあちゃんの「いとこ煮」おいしそうですね。小豆を買ったのでチャレンジしてみようかなと思っています。『ほっとするね。おばあちゃんの懐かしご飯』を読むたび、日本には様々な種類のご馳走があるなあと感心させられます。風土に応じた多様性に驚かされています。（女性）

◆インターネットで、『aff』が閲覧できるのが便利ですね。（女性）

放射性セシウムに関する情報について

農林水産省のホームページ（東日本大震災に関する情報）をご覧ください。
http://www.maff.go.jp/

携帯電話用ホームページ
http://www.maff.go.jp/mobile/

広報誌aff（あふ）の感想をお聞かせください

今後もよりよい広報誌とするため、読者アンケートにご協力ください。農林水産省のホームページ、広報誌affのサイトから回答できます。 http://www.maff.go.jp/j/pr/aff/

今回取材した地域

東日本大震災からの復旧・復興に向けて
❶宮城県名取市（名取市花卉生産組合）
特集1
❷岡山県久米郡美咲町（農事組合法人境）
❸滋賀県近江八幡市
（JAグリーン近江大中の湖ブロッコリー生産部会）
❹栃木県鹿沼市（亀和田・北赤塚営農組合）
特集2
❺東京都江東区（深川宿など）

農林水産省フェイスブック 今月の「いいね!」がいっぱい!

農林水産省の公式Facebookページから、たくさん「いいね!」をもらったヒット記事を、厳選して紹介します。

東京モーターショーで登場した、真紅のトラクターコンセプトは、ずばり「かっこいい農業」!

昨年11月～12月に有明で開催された東京モーターショー。このイベントで注目されたのは、なんとトラクターでした。ライトに映える赤いボディに高級感たっぷりのシート。ヤンマー（株）がつくったコンセプトトラクター「YT-01」です。フェラーリのデザインも手がけた工業デザイナーの奥山清行さんのデザインで、テーマはまさに「かっこいい農業」。数多くの個性的な車にも負けず、ひときわ異彩を放ち、観客からは歓声もあがっていました。

農林水産省公式フェイスブックページは、こちらから! →

〈新・農業人フェア〉

160を超える参加した企業・地方自治体が参加しており、会場のエリアは地方ごとに分かれている

農業を仕事にしたい、あなたのために

学生に人気の就農支援イベント開催

文／柿野明子

今、若者向けの就農支援イベントが大盛況です。農業法人の数が増えつつあるなか、就職先の一つとして農業法人を考える学生が増えているようです。

参加した就農希望者は1600人以上!

これまで農業といえば「家業」として、先祖代々の土地で営まれることが大半でした。しかし、現在は企業の農業参入や、経営規模の大きい農業法人の数も増え状況は大きく変化。規模拡大や経営の多角化を目指す農業法人では、有望な若い人材を求めています。このため、若者向けの農業就職支援イベントが増えています。

就農支援イベント「新・農業人フェア」も、その一つ。平成25年度から主催するのは、人材採用に関する事業を展開する株式会社リクルートジョブズ。農林水産省の補助事業により、就職先の候補として農業を考える人や、自分で農業を始めたい人、転職希望者に必要な情報を発信するイベントを全国主要都市で開催しています。今年度は7回実施される予定。このイベント告知をリクルートの求人情報誌や求人サイトで行ったところ、参加者が大幅に増加。今年2月に東京国際フォーラムで行われた回では、全国の農業法人や自治体などがブースを出展し、1658名が参加しました。

会社を辞めて就農した先輩農家から、農業を始めたころの体験談なども聞くことができる

就農イベントは、ほかにも多数開催

「来場される方には、進路に悩む大学生もいますし、脱サラして就農したいという方も多いですね。最近は、女性の就農希望者や、ご夫婦で就農を考えている方も増えています」と話すのは、株式会社リクルートジョブズ営業企画部CRMグループの深瀬貴範（ふかせたかのり）さん。

「新・農業人フェア」以外にも、就農イベントは、まだまだあります。農業コンサルティング会社のコネクト・アグリフード・ラインズの開催する就農支援イベント「アグリク」は、文系大学生も数多く参加することで、話題になっています。ほかにも、農林水産業に特化した求人サイト「第一次産業ネット」や「農家のおしごとナビ」などが定期的に就職相談セミナーを実施中。このような就農支援イベントは今後ますます増えていきそうです。

学生の就職希望先として、農業法人の名前がでく自然に挙がる日も、そう遠くないかもしれませんね。

▼紹介した就農イベントの詳しい開催情報はこちら

新・農業人フェア　株式会社リクルートジョブズ主催
http://shin-nougyoujin.hatalike.jp/

アグリク　株式会社コネクト・アグリフード・ラインズ主催
http://agric.konnect-afl.jp/

第一次産業ネット　http://www.sangyo.net/

農家のおしごとナビ　株式会社あぐりーん主催
http://www.agreen.jp/

ほかにも、数多くの就農支援イベントが開催されている

〈アグリク〉

2月に東京・霞ヶ関で開催されたイベントには150人を超える学生が参加した